

## クロアチア情勢（2020年3月）

在クロアチア日本国大使館

### 1. クロノロジー

#### 【内政】

1日	3月15日に行われる与党第一党クロアチア民主同盟(HDZ)党首等選挙に関して、3月1日、候補者が確定し、公式な党内選挙キャンペーンが開始された。
3日	フラニ・クロアチア海軍中將は、正式にクロアチア軍参謀総長に就任。
4日	クロアチアにおける10例目の新型コロナウイルス感染症例が認知。
5日	トルコから欧州への移民・難民の動きへの対応及び新型コロナウイルス対策に関する国家安全保障会議(NSC)が開催され、ミラノビッチ大統領、プレンコビッチ首相、ボジノビッチ副首相兼内務相、ベロシュ保健相等が出席。同日、「ベ」保健相は、新型コロナウイルスの発生に関する国家緊急事態を宣言する決定に署名。
15日	HDZ党首等選挙が行われ、プレンコビッチ首相がコバチ議会外交政策委員長(元外相)を大差で破り、党首に再選。筆頭副党首及び副党首(4名)に関しても、「プ」首相とともに立候補を表明していたメドベド退役軍人相、プトコビッチ海事・交通・インフラ相、アヌシッチ・オシエク市長、バチッチ与党院内幹事及びブシッチ外務・欧州問題省副大臣がそれぞれ選任された。
	ベロシュ保健相は、クロアチアは、対新型コロナウイルス防衛の「第3フェーズ」に突入した旨発言。「第3フェーズ」は医療システムの活性化の強化を意味し、医療システム全体、すべての医療専門家、医療・技術機器を動員する。「第1フェーズ」は水際対策(域外からの感染流入の防止)、「第2フェーズ」は国内での感染の防止・先送りである由。)
16日	クロアチアにおける50例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
	HDZを離党していたグラニッチ前大統領特別顧問(元外相)が同党に復党。
17- 18日	17日、クロアチア政府は、新型コロナウイルス流行中における国家機関の活動を促進するため、市民保護当局に、より強力な権限を与えることを内容とする市民保護法改正案を議会に提出し、18日、同法案が採択された。
18日	ミリエニッチ議員(SDP)の大統領府長官兼外交・欧州問題担当顧問就任に伴い、レアコビッチ元議員(SDP)が代理として議会議員に就任。
19日	クロアチアにおける100例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
	HDZ 党首等に立候補し落選したコバチ議会外交政策委員長及びブルキッチ議会副議長が、それぞれ議会内職務から解任され、後任として、バリッチ議員(HDZ)

	が議会外交政策委員長に、サナデル選挙・任命・行政委員会委員長(HDZ)が議会副議長に就任。
21日	クロアチアにおける200例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
22日	午前6時24分、ザグレブ北部のマルクシェバツを震源地とするマグニチュード5.5の地震が発生。震源の深度は、メルカリ震度階級でⅧ。その後、マグニチュード5.0の地震を含む数回の余震が発生。140年ぶりの大型地震により、27名が負傷、聖母被昇天大聖堂やクロアチア議会議事堂等を含むザグレブ市中心部の歴史建造物約7千棟が損傷。
23日	クロアチアにおける300例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
	22日のザグレブ大地震の被災により脳に損傷を受け危篤状態にあった15歳の少女が死去。
25日	クロアチアにおける400例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
	クロアチア政府は、新型コロナウイルスの蔓延を抑えるための取組として、警察が携帯電話の位置情報を通して自主隔離措置対象の市民を追跡することを可能とする、電子通信法の改正案を議会に提出。
27日	クロアチアにおける500例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
28日	クロアチアにおける600例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
29日	クロアチアにおける700例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。
31日	クロアチアにおける800例目の新型コロナウイルス感染症例が発生。

## 【外交】

2日	ミラノビッチ大統領は、ウィーンを訪問し、ファン・デア・ベレン墺大統領と会談。
	グルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相は、アルバニアを訪問し、アルバニアのEU加盟等につきチャカイ外相代行と会談した他、メタ・アルバニア大統領とも会談。
	グルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相は、北マケドニアを訪問し、北マケドニアのEU加盟等につきディミトロフ外相と会談。
3日	プレンコビッチ首相、ボジノビッチ副首相兼内務相、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長、ミシェル欧州理事会議長、サッソーリ欧州議長等で構成される代表団は、ミツォタキス・ギリシャ首相と共に、(移民状況の)事実調査のためギリシャ・トルコ国境地域を訪問。
3-4日	EUの外交、安全保障及び防衛政策に関するEU加盟国議会間会議がザグレブで開催され、3日にグルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相が、4日にクルスティチェビッチ副首相兼国防相が出席。
4日	トルコから欧州への移民・難民の動きへの対応を議題とする臨時EU内務大臣会合がブリュッセルで開催され、ボジノビッチ副首相兼内務相が議長を務めた。

4-5日	4～5日、EUの防衛及び安全保障上の優先事項、EU・NATO間協力、シリア情勢、ギリシャ・トルコ間国境に多数の移民がもたらすリスク等を議題とする非公式EU国防大臣会合がザグレブで開催された。
5日	ブトコビッチ海事・運輸・インフラ相とシーヤールトー・ハンガリー外務・貿易相は、経済分野における協力及び二国間の国境地域の輸送接続の強化を目的としたstatement of intent に署名。
	ザグレブ市郊外において非公式EU外務大臣会合(ギムニツヒ)が開催され、グルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相が出席。
6日	ミラノビッチ大統領は、アフガニスタンにおけるNATOの「確固たる支援」ミッション(RSM)にクロアチア軍第12部隊を派遣する大統領決定に署名。
	移民危機等を議題とする、臨時EU外務理事会がザグレブ市で開催され、プレンコビッチ首相が同理事会会合の冒頭挨拶を行った。同理事会において、イドリブ危機及びトルコとのEU域外国境の状況に関する声明が採択された。同日、「プ」首相は、エルドアン土大統領、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長及びミシェル欧州理事会議長との電話会議に参加。
	新型コロナウイルスの影響により、3月22日及び23日にザグレブ市で開催予定の欧州刑事警察機構の合同議会監視グループによる第6回会合が延期。新型コロナウイルスの影響により、クロアチアがEU議長国として開催する会合が延期されたのは、同会合が初。同日、クロアチア議長国の下で3月26日及び27日にザグレブで開催予定であった経済大臣との非公式対話も中止された。
10日	プレンコビッチ首相は、新型コロナウイルス対応に関する臨時EUテレビ首脳会議に出席。
	ディビャク科学・教育相は、新型コロナウイルスによる教育システムへの影響に関するUNESCO教育大臣オンライン会議に参加。
10-11日	オパティヤ市(クロアチア西部)で非公式EU運輸大臣会合が開催され、ヴァラン欧州委員(輸送担当)、欧州海洋安全庁(EMSA)長官、ブトコビッチ海事・運輸・インフラ相等が出席。11日の同会合において、EU海事政策の発展のためのガイドラインに関するオパティヤ宣言が採択された。
13日	クロアチアEU議長国事務局は、ウェブページ上で「クロアチアEU議長国は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月15日まで、閣僚級の非公式会合を除く、全てのクロアチアで行われる議長国関連の非公式会合を延期することを決定した。閣僚級の非公式会合はケース・バイ・ケースで判断する。」旨と、延期された会合リストを発表。
24日	EU総務理事会が開催され、同理事会を構成する加盟国外相は、北マケドニア及びアルバニアとのEU加盟交渉開始を決定する結論文書を採択。
25日	22日のザグレブ大地震を受けクロアチア政府がEU市民保護メカニズムからの国

	際支援を要請、25日までに、スロベニア、ハンガリー、オーストリア、イタリア、モンテネグロ、リトアニア及びフランスが支援物資を提供。
26日	プレコビッチ首相は、新型コロナウイルス及びその後の経済の立て直し等を議題とする欧州理事会ビデオ会議に出席。同理事会において、EU首脳陣は、24日のEU総務理事会で採択された北マケドニア及びアルバニアとの加盟交渉開始を決定する結論文書を承認。
27日	プレコビッチ首相は、李克強中国首相と電話会談を行い、新型コロナウイルス対応及び中国からの医療用保護具の調達等につき議論を行った。

### 【経済】

2日	政府は、プーラ総合病院の建設及び医療機器の導入事業に係る、同病院とエルステ銀行との融資契約について、1.5億クーナの政府保証を付与する合意書に署名。
3日	国営エネルギー配送会社プリナクロは、現在建設中であるオミシャリーズロビン間のガスパイプライン(事業費4.3億クーナ)について、本年末までに完成するとの見通しを発表。
10日	クロアチア航空は、ザグレブーローマ間の運航を3月末まで停止することを発表。
11日	国営フェリー運航会社ヤドロリニヤは、スプリットーアンコーナ(伊)間の旅客フェリー運航を当面停止することを発表。
12日	政府は、ウリヤニク造船所による2020年の海面使用权に係る使用料(約2億クーナ)の支払いを1年猶予することを決定。
	国営クロアチア鉄道インフラストラクチャー社と Cengiz Insaat Sanayive Ticaret 社(トルコ)は、クリジェブツィ(クロアチア北部)・ハンガリー国境間の鉄道路線(42.6キロ)の改修事業について契約に署名。総事業費は24.2億クーナ。今年4月に工事を開始し、2023年10月までに完成予定。
13日	クロアチア航空は、スプリット空港、ドブロブニク空港、リエカ空港を発着する国際線の運航を当面停止することを発表。
14日	政府は、食料品、衛生製品、医薬品、防護服等の価格を管理することを決定。2020年1月30日時点の価格を基準に、上限額を定める方針。
17日	欧州委員会は、クロアチアが申請していた鉄道旅客輸送サービスの向上のための新規鉄道車両(21両)の購入について、1.19億ユーロを拠出することを承認。
	クロアチア電力公社の子会社HEP Plin 社は、ブコバル市に拠点を置くエネルギー企業 Energia Naturalis 社傘下の PPD-Distribucija 社(天然ガス配送事業)、PPD-Opkrba Kucanstva 社(家庭向けガス配送事業)を買収。買収費用は7650万クーナ。

19日	クロアチア市民保護本部は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、薬局や食料品及び衛生用品等を販売する商店、ガススタンド等を除き、店舗の営業を同日より当面(今後30日間)停止する措置を発表。
	クロアチア議会は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済的影響を緩和するための経済対策関連法案を可決。事業規模は300億クナ。
	クロアチア議会は、たばこ、アルコール飲料、ソフトドリンク、エネルギー飲料に対する課税を引き上げる法案を可決。4月1日より施行。
21日	クロアチア市民保護本部は、22日以降、タクシーを除く公共交通サービス(鉄道、バス、トラム等)の運航を1か月間停止することを発表。
	ヤドロリニヤ社は、国内のフェリー運航について、観光目的による乗客の輸送を制限する方針を発表。
22日	クロアチア市民保護本部は、23日以降、市民による居住地からの移動を制限する措置を発表。また、公設マーケットにおける農産物の販売を当面停止する措置を発表。
	クロアチア市民保護本部は、現在営業を許可されている店舗(薬局、食料品店等)の営業時間を8時から17時までに制限することを発表。
23日	3Maj造船所は、Marflet Marine 社(スペイン)と原油タンカー船の建造に関する協定に署名。2021年7月15日までに引き渡す予定。
24日	クロアチア航空は、3月25日から4月19日までの間、国内線の全てのフライトの運航を停止することを発表。
25日	欧州投資銀行は、EIBグループ(EIB及びEIFファンド)による2019年の対クロアチア投資について、総額5.69億ユーロ(前年比12.1%増)となったことを発表。
30日	政府は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、船舶によるクロアチア国内への入国を当面閉鎖することを発表。
	クロアチア航空は、ザグレブとフランクフルト、ブラッセル、アムステルダム、ロンドンを結ぶ便を除き、全てのフライトの運航を停止することを発表。
31日	クロアチア国立銀行は、為替レートの安定性を確保するため、今月に入り5度目となる6.18億ユーロのユーロ売り市場介入を実施。これまでの介入総額は22.5億ユーロ。